# 私が住む町・住みたい町（もっと地域で子育てを）

本提案は子育て家族を取り囲む地域のあり方や子供にとっての住みよい町とは
何かを、完全に私情のみで論じ提案するものである。

私は今、九州の中心都市博多のど真ん中に住んでいる。博多駅や天神地区へは徒歩圏内。交通網は隙間無く張り巡らされ、スーパーやコンビニはそこら中に溢れている。国の出先機関も集まり、主人も私も職場へは徒歩だ。とても便利だ。これ以上の所は無い。と思っていた。

子供が出来た。見る目が変わった。

緑が無い。子供が安全に遊べる場所が無い。車が多くて騒音・大気汚染がひどい。悪い所ばかりが目に付く。保育園に庭はあるが大きな道路に面していて決して良い環境とは言えない。

やっと理解した。ここは子育てする場所じゃない。住みやすい町というのは家族構成や家族年齢に合わせて変化するものなのだ。引っ越そう。子育てに適した場所へ。

こうして私の住みたい町へのイメージは膨らむこととなった。子育てに適した子育てのし易い、子供のための町。

適した場所があった。福岡市のアイランドシティ「照葉」の町計画。幼稚園を町の一番良い所へ配置し、近くには老人施設が設けられ、周りは自然に溢れている。居住区には車の乗入を制限し、地域住民との交流も盛んだ。私のイメージにとても近い町であるが、どこまで実現するかは今のところ不明だ。もし実現したなら私はこの町に住んでみたい。

【町の全体像】

私のイメージする町とは、子供中心の町だ。子供が１人で歩ける安全な町。町全体が子供を見守り、子育てする町。

【最近の子供】

最近の子供は恐い。思うに叱られ免疫がないからだ。免疫がないからすぐ腹が立って切れる。昔は大人が叱っていた。小さい頃から。核家族化と少子化の影響か、親さえも叱ることは少ない（虐待はあっても）。だからなぜ注意を受けたのか考える前に、ムカツク、と言

う言葉が出る情けない時代だ。
　だから、地域ぐるみの子育てが必要なのだ。何も子供の世話をして欲しいわけではない。小さい頃から大人と接する機会を増やし、分別のある芯の強い人間に育つような子供時代が過ごせる、そんな町が良いのだ。

【保育園（幼稚園）と老人施設】
　町の中心部には教育機関や商業施設が集まり、特に保育園に隣接して老人施設があったら良い。出来れば保育所と老人施設の庭は共同利用としたい。お年寄りには子供の元気なパワーを、子供には遊びや知恵を、時には叱責しながら互いに生きる楽しみを与え合うことが出来る。また、教育機関は休日一般市民に解放し、集会やお稽古教室、レクリエーション等に利用可能とする。

【遊歩道と公園】
　町には遊歩道と車道を設ける。住宅へは遊歩道から出入する。遊歩道と車道は完全に分離し、中心部（教育機関や商業施設）へは車道を通ることなく行くことが出来る。中心部には大規模な公園を設け、小高い丘やちょっとした森などがあり、散歩やゲードボールが楽しめる。加えて地域毎に小規模公園や緑地があるものとする。

【居住地域】
　住宅地は、前面道路や隣接地との境界に背の高い塀は設けず、極力開けた感じにする。防犯対策は難しくなるが、ご近所同士で見張り合うようにする。建築物は基本的に住み手の自由（木造やコンクリート造等）で良いが、町並みは統一させたい。
　車は可能であれば住宅地への乗入れを制限し、地域毎に駐車場を設置する。もしくは住宅地の前面道路は遊歩道、背面道路は車専用道と言った車道と歩道の分離をするのが良い。

〜〜　私のイメージする町に住む、小学生の男の子の一日を追ってみた　〜〜

　朝、小学校で飼っているニワトリの無く声で目がさめる。夏休みではないが、近所の公園で毎日行われているラジオ体操に参加するため、準備をする。
　「行ってきま〜す」と声を残し、元気よく朝日がいっぱいの遊歩道へ出る。洗濯物を干している近所のおばさんたちに「おはようございまぁす」と声をかけながら走って行く。

　しばらくして家に帰ると、お母さんが朝ご飯の準備をし、お父さんは新聞を読んでいる。共働きの両親は、朝忙しい。朝ご飯を食べ、家を出るのはお父さんと一緒だが、お父さんは裏門から車に乗って会社へ行った。ぼくは車の通らない遊歩道から学校へ向かう。

小学校の手前には保育園がある。ぼくの通っていた保育園だ。隣接した老人施設と供用の庭では、よく遊んでくれたおじいちゃんが今日も朝の日光浴をしている。「おじいちゃ～ん」と手を振った。おじいちゃんにはいろんなことを教えてもらったし、よく叱られもした。ホントのおじいちゃんじゃないけど、おじいちゃんが大好きだ。

小学校では探検ごっこが流行っている。中央公園にある秘密の森の探索だ。放課後になると仲間が集まり、集合時間の確認をする。学校の規則で放課後は一度家に帰らないといけない。ぼくの家は両親が共働きなので、近所の山田君の家に帰る。山田君のお母さんは働いてないので、ぼくのような共働きの家庭の子を夜まで預かってくれる。この町では地域毎にこのような家がいくつかあるのでとっても助かるとお母さんはいつも言っている。代わりに休みの日は山田君も一緒にお出掛けしたりするんだ。

秘密の森には知らないことがいっぱい。変な形の昆虫や、ミミズのでっかいのや、小川の周りに生えている植物は何だろう？でも休みの日になると何でもおじさんが森にいて、何でも教えてくれるんだ。ぼくは何でもおじさんがホントは吉村君のお父さんだって知ってるんだけどね。

暗くなってきたから帰ることにした。あちこちから夕ご飯のいい匂いがする。山田君の家で宿題をしていると買物袋を下げたお母さんが迎えにきた。一緒に帰ると、お母さんは夕ご飯の準備を始めた。そのうちお父さんも帰ってきた。夕ご飯はみんなで食べる。今日秘密の森で見てきたことをお父さんとお母さんに話しながら・・・。　　ＥＮＤ

もし実在するならこの子はいじめの対象になりそうだ。今の時代、素直な良い子は疎まれるものだ。だが、少数でなく、大多数の子供がこんなだったらきっと日本の未来は明るい。

また、この提案で共働きや他人任せの子育てを勧めているわけではない。自分の子は自分で責任を持って育てることがもちろん大前提だと思っている。

最後に、この町に住む大人の役割は大きい。すべてにおいてボランティアをボランティアと思わず、当然のこととして行うことのできる、そんな人間でなくてはならない。あなたはこの町に住めますか？